

開館 10 周年記念

日本の印象派・金山平三

移りゆく時間の中で描く日本の風景



写生地の金山平三



《林檎の下 (プルターニユ)》
1915 年
兵庫県立美術館

平成 24 年 4 月 7 日〔土〕－平成 24 年 5 月 20 日〔日〕

休館日：月曜日（ただし 4 月 30 日〔月・振休〕は開館、5 月 1 日〔火〕は休館）

開館時間：午前 10 時－午後 6 時（金・土曜日は夜間開館、午後 8 時まで）

入場は閉館 30 分前まで

会場：兵庫県立美術館 3 階 企画展示室

※当館の開館 10 周年を記念し、本展の観覧券（または半券）でコレクション展（金山平三記念室もごぞいます）を無料でご観覧いただけます。（本展会期中に限りです）

兵庫県立美術館は本年 2012（平成 24）年 4 月で、HAT 神戸への移転・開館から 10 年目を迎えます。これを記念して、当館コレクションの核である金山平三（1883－1964）の回顧展を開催することとなりました。

金山平三は、神戸生まれの日本近代を代表する洋画家です。信州・諏訪湖や山形・最上川、日本海沿岸を情感あふれる筆致で描いた風景画で知られていますが、肖像や群像を含む人物画にも忘れがたい作品を残し、歌舞伎や文楽の場面を描くいわゆる芝居絵にも独自の境地をひらきました。

東京美術学校を優秀な成績で卒業した金山平三は、1912 年（明治 45）渡欧し、パリを拠点にヨーロッパ各地の美術館を見て歩くほか、気に入った土地に滞在して制作に励みました。4 年後帰国し、文展・帝展で活躍しますが、1935（昭和 10）年の画壇変革を機に中央画壇と袂を分かち、以後实景に基づく風景画制作にいつそう邁進することになります。

当館では、前身の近代美術館時代に故らく夫人や関係者の方々からご寄贈いただいた 540 点余りの作品と資料一式を所蔵しており、ひとりの作家の芸術と生涯を多角的に考察しうる状況にあるといえます。この度の展覧会では、これらの所蔵品に加えて、全国の美術館等に所蔵される作品を展示し、資料から広がる考察を作品そのものに向けて、風景画にとどまらない金山平三の芸術の全体像と制作の実態に迫ることとします。

神戸花隈で育った金山平三はやんちゃで腕白な少年時代を過ごしますが、東京美術学校に入学してからは一転、真面目な画学生となってトップの成績で卒業します。師の黒田清輝（1866 - 1924）からも大いに目をかけられますが、神戸に帰って私費留学の準備を進め、1912（明治45）年1月、パリに向けて神戸港を出発しました。ヨーロッパ各地に滞在して写生に励むとともに美術館を見て回り、パリのアトリエではモデルを使って描くなど充実した滞欧生活を送って帰国したのは1915（大正4）年10月のことです。帰国後、1916（大正5）年の第10回文部省美術展覧会（文展）には滞欧作1点と小豆島で描いた《夏の内海》を出品し、見事後者が特選となりました。本作品は文部省に買上げられ、現在東京国立近代美術館の所蔵品となっています。



《夏の内海》1916年 東京国立近代美術館

ヨーロッパから帰国して最初に足しげく通うようになるのは信州の下諏訪です。年末年始を神戸で過ごしたあと、毎年結氷の頃には下諏訪に向かい、諏訪湖でスケートする人々をまず描きました。《習作（氷すべり）》は、冬の短い日、お昼を過ぎてはや陽が傾きはじめる一瞬とすばやく動く人々の様子が的確に描かれています。



《習作（氷すべり）》1917年 兵庫県立美術館

東京の下落合（現在の新宿区中井）にアトリエを構えた金山平三は、中央本線沿いの各地、あるいは信越線を利用して新潟、北陸の海沿いまでのさまざまな写生地を開拓し、雪景色を中心とする冬の風景を描きました。雪が雑多なものを覆い隠し単純な量感を出現させること、冬枯れの景色によって統一的な色彩を得られることに魅力を感じるとともに、それぞれの土地の雪の違い、天候と時間によって変化する様子に描く意欲を刺激されたのでしょう。中でも大正時代に通い始め終戦時には一年を通じて住んだ山形県大石田は別格の写生地で、風景の中の人々と生活にあたたかい観察の目を注いで、季節や天候、一日の時間の変化を描ききりました。



《平穏村》1935-45年 兵庫県立美術館



《山仕事の帰り》1942年 山形美術館

風景と季節にふさわしい色と形と構図を鋭く見つける金山平三の写生地のレパートリーは驚くほど広く、実に北海道から九州・沖縄にまで及んでいます。また、雪景色だけでなく、長い冬が終わり浅い春の到来を感じる一瞬も好んで絵にしています。戦後は大石田を拠点に青森県十和田にも本格的に通うようになり、大石田の雪景色とは異なる色彩と構図を獲得します。



《洞爺湖》1939年 兵庫県立美術館



《一番桜》1954年 兵庫県立美術館



《桂》1945 - 56年 兵庫県立美術館

画壇から距離をおいて制作を続けた金山ですが、1956（昭和 31）年の「画業五十年金山平三展」で自選の二百数十点を披露し好評を得たことから、翌1957（昭和 32）年には日本芸術院会員に任命され日展顧問にも迎えられました。制度上の名誉には関心を持たない金山平三でしたが、その後も描きためていた芝居絵を含む旧作と新作を発表し、作品保管のための準備に余念のない晩年を送りました。



《凧揚げ》1957 - 61年 川崎重工業株式会社



《ガントリークレーン造船所》1953年 川崎重工業株式会社

主 催：兵庫県立美術館、日本経済新聞社、神戸新聞社
後 援：公益財団法人 伊藤文化財団、兵庫県、兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会、
サンテレビジョン、ラジオ関西、Kiss FM KOBE
協 賛：一般財団法人 みなと銀行文化振興財団
特別協力：川崎重工業株式会社

観 覧 料：一般 1,200 (1,000) 円／大学生 900 (700) 円／高校生・65 歳以上 600 (500) 円／
中学生以下無料
※()内は前売および 20 名以上の団体割引料金
※高校生・65 歳以上は前売販売しません。
※前売券は 4 月 6 日 (金) まで販売します。会期中は前売券を販売しません。
※障害のある方とその介護の方 1 名は各当日料金の半額 (65 歳以上を除く)
※割引を受けられる方は、証明できるものをお持ちのうえ、会期中美術館券売窓口で入場
券をお買い求めください。
※前売券販売場所：チケットぴあ (P コード：765-073)、ローソンチケット (L コード：55019)
ほか京阪神の主要プレイガイド
※本展観覧券 (または半券) で、コレクション展 (金山平三記念室もごさいます) を無料で
ご覧いただけます。(本展会期中に限る)

関連事業

■連続レクチャー「金山平三を語る」

第 1 回「画家・金山平三の土台形成に関わる 3 つのこと―少年期、東京美術学校、そして滞欧経験」
平成 24 年 4 月 7 日 [土] 講師：萬木 康博 (美術評論家)

第 2 回「帝展時代の金山平三」

平成 24 年 4 月 14 日 [土] 講師：相良 周作 (当館学芸員)

第 3 回「金山平三の後半生」

平成 24 年 5 月 19 日 [土] 講師：西田 桐子 (当館学芸員)

いずれも午後 3 時 30 分から (約 90 分)

当館レクチャールームにて (定員 100 名)、参加無料

■学芸員によるギャラリートーク

平成 24 年 4 月 28 日 [土]、5 月 5 日 [土・祝] いずれも午後 5 時から (約 30 分)

当館企画展示室 (金山平三展会場) にて、参加無料 (ただし展覧会チケットが必要です。)

■ミュージアム・ボランティアによる解説会

会期中の毎週日曜日 午前 11 時から (約 15 分)

当館レクチャールームにて (定員 100 名)、参加無料

■こどものイベント「金山さんの世界へ出かけよう！」

平成 24 年 5 月 12 日 [土] 午前 10 時 30 分から午後 0 時 30 分まで

会場：アトリエ 2、企画展示室

対象：小・中学生とその保護者 ※小 3 以上はこどものみの参加も可

定員：30 名 参加費：500 円程度

受付開始日：4 月 14 日 [土] 10 時～ (電話受付、先着順)

詳しくはこどものイベント係 078-262-0908 まで

お問い合わせ先

兵庫県立美術館 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1 丁目 1 番 1 号

【企画内容に関すること】担当学芸員 西田 桐子／相良 周作

tel: 078-262-0909 (学芸直通) fax: 078-262-0913

【取材・写真提供に関すること】営業・広報グループ

tel: 078-262-0905 (営業・広報直通) fax: 078-262-0903

広報用画像について

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。別紙の申込書
をご使用ください。

開館 10 周年記念

日本の印象派・金山平三

移りゆく時間の中で描く日本の風景

営業・広報グループ 宛
FAX (078) 262-0903

ご希望の写真の番号に○をつけてください。後日お送りいたします。また、読者・視聴者プレゼント用招待券(最大10組20名まで)もご用意しております。ご希望の場合は、ご請求ください。

番号	作家名・作品名・制作年・素材・その他(クレジット等)
1	《林檎の下 (ブルターニュ)》1915年 兵庫県立美術館蔵
2	《夏の内海》1916年 東京国立近代美術館蔵
3	《習作 (氷すべり)》1917年 兵庫県立美術館蔵
4	《平穏村》1935-45年 兵庫県立美術館蔵
5	《山仕事の帰り》1942年 山形美術館蔵
6	《洞爺湖》1939年 兵庫県立美術館蔵
7	《一番桜》1954年 兵庫県立美術館蔵
8	《桂》1945 - 56年 兵庫県立美術館蔵
9	《凧揚げ》1957 - 61年 川崎重工業株式会社蔵
10	《ガントリークレーン造船所》1953年 川崎重工業株式会社蔵

※上記図版を媒体掲載されるときには、上記作品名、制作年等を必ず記載してください。

貴社名			
媒体名	新聞・雑誌・ミニコミ TV・ラジオ・インターネット		
ご担当者名			
ご住所	〒		
電話番号		FAX	
メールアドレス	@		
URL			
掲載・放送予定日			
写真到着日希望			
読者・視聴者プレゼント用招待券 (最大10組20名まで本展を媒体でご紹介いただける場合に限り)	組	名	希望
メールマガジンをお持ちですか?	はい ・ いいえ		
メールリングリストをお持ちの場合、当館の展覧会・イベント情報等を送信していただく事は可能ですか	可 ・ 不可		

- ※ 写真データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできませんので、ご了承ください。
- ※ 本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体 (VTR/DVD) などを、下記宛にお送りくださいますようお願い申し上げます。
- ※ 本展覧会会場の取材、撮影をご希望の場合は、上記までご連絡ください。事前にご連絡のない取材・撮影はお断りいたします。